

【エントリー情報】

自治体名：杉戸町

学校名（自治体でエントリーされる場合は記載不要です）：杉戸町立杉戸小学校

ご記入者：加藤 順子

【設問】

① 貴自治体・貴校で目指している目標（ビジョン）・目標に至った背景・想いを教えてください。（1,500 文字以内）※可能な限り自治体や学校全体の目標をご記入ください。

杉戸町では、児童生徒全員に一人一台タブレット端末が配付されている。「Microsoft Teams」や「ミライシード」などを活用して、個別最適で協働的な学びの実現を杉戸町全体で目指している。前年度までのタブレット端末の積極的な活用により、児童は ICT 機器の基本的操作を習得するとともに、タイピング技能を高めることができた。本年度は、タブレット端末を文房具の一つとして位置づけ、児童が学習に応じて自由に活用できるようにした。

② 目標（ビジョン）に向けた具体的な個人のお取り組み・学校全体でのお取り組み、学校の枠を超えて市や他校へ広がったお取り組みや、その中で発生した課題や苦勞を教えてください。（1,500 文字以内）

(1) 「ミライシード」における「ドリルパーク」の活用

「ミライシード」に搭載されている「ドリルパーク」では、児童個々に合ったレベル・ペースで知識の定着を進められるよう、数多くの学習ドリルが存在する。1問ごとに即時正誤判定できるうえに、間違えた問題だけ解き直しすることも可能なため、児童だけでも効率的に知識の定着を進めることができる。教師が一律に同じ問題を出題するだけでなく、児童自身に取り組む問題を選択させる機会も設けている。自分自身を俯瞰^{ふかん}して捉えさせ、意図をもって学習に取り組むよう促している。



(2) 「ミライシード」における「オクリンク」「ムーブノート」の活用

本校では、「オクリンク」や「ムーブノート」を活用した意見交流を行っている。このアプリケーションを活用することにより、多くの意見に触れることが可能となった。その結果、新たな気づきを生むきっかけが増え、学びを深められるようになった。友達の意見にコメントを送ることができ、時間と空間を越えて他者と認め合うこともできた。



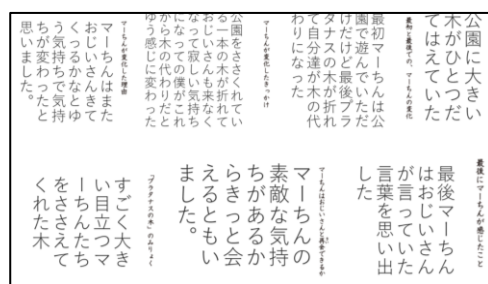
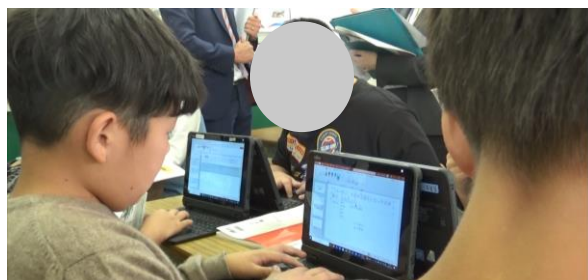
(3) 単元内自由進度学習における ICT の活用

4年生 国語『プラタナスの木』 「オクリンク」「ムーブノート」の活用

単元内自由進度学習とは、1つの単元内において、児童自身が学習の進度を決め、自己調整しながら学びを進めることのできる学習形態である。

児童は「学習の手引き」をもとに、取り組む課題を自己選択しながら学習を進めていく。学習の成果を残す際には、紙のノート、タブレット端末どちらを選択してもよいとした。学習の取り組み方を自己で選択させることで、自身の認知過程に即した効率的な学びを実現できるように努めた。

紙のノートを選択した児童もノートの写真を撮り、オクリンクやムーブノート上で公開するようにした。児童は、必要に応じて他者の考えに触れ、直接質問や意見交流をすることで学びに深まりが生まれていた。



5年生 社会「これからの工業生産とわたしたち」 「Microsoft Teams」の活用

この単元も、単元内自由進度学習で行った。「学習の手引き」をもとに、児童が自らの課題に向かって学習を進めた。

そのうえで、児童の学びを促進させるための文献、映像資料を「Microsoft Teams」にアップロードし、必要に応じて活用できるようにした。

また、児童は目的意識をもって、インターネットを活用していた。その際、自身が活用したサイトのリンクを「Microsoft Teams」のクラスのチャンネルに投稿させ、学級全体で共有した。一人ひとりが得た有益な情報を共有することで、学びを深めていくことができた。



③ (3-1) ICT を活用することで、先生のご指導や働き方、児童・生徒の学び方や学習への態度、学習成果などどのような変化があったか、またこれらの変化をどのように評価されているか教えてください。(2,000 文字以内)

ICT を活用することで、児童は自らの学びに必要な情報を短時間で得ることができた。その結果、学びの主語が常に「自分」となり、児童の主体性を育むことができたと考える。児童にも、タブレット端末を自己の学習の中でどのように生かすかを考えさせるようにした。「Microsoft Teams」のクラスのチャンネルに、それぞれの学習の進捗や利用したサイトなどを投稿させることで、児童一人ひとりの学びが孤立せず、他者と関わりながら学習することが可能となった。

音楽では、楽譜やリコーダーの運指、師範演奏など、必要な情報をタブレット上で共有し、個人練習やグループ練習で児童が必要に応じて使用し、活動することができた。

また、クラス内だけでなく、他学年との交流にもオクリンクのカードを使った学習が有効だった。

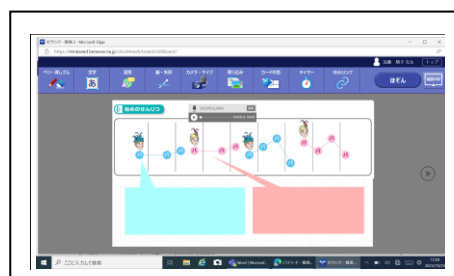
(3-2) ICT 活用による成果について、定量的なデータでお示し可能なデータがあれば、教えてください。(1,500文字以内文字以内) ※本設問のみ任意回答

④ お取り組みの中でのミライシードの活用画面・活用機能お取り組みの中でミライシードが役立った場面・活用頂いたアプリ/機能を教えてください。

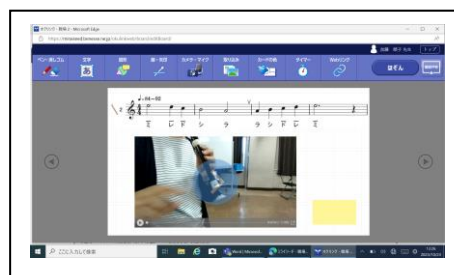
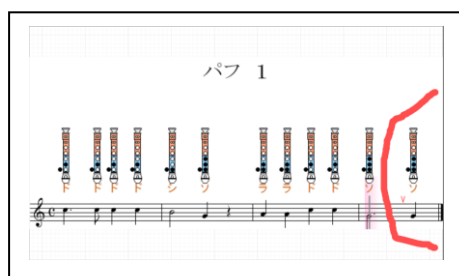
※活用エピソードが複数ございましたら、文字数制限内でご記入ください。1つのエピソードに絞る必要はございません。(2,000文字以内)

(1) 「オクリンク」を音楽の学習で活用した事例

ア 1枚のカードに音源と図形楽譜を貼り、児童が個人で聴きながら考えを記入する。



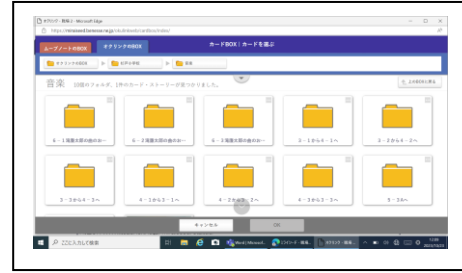
イ 階名やリコーダーの運指を記入したカードを作り、配って個人で練習できるようにする。(楽器の模範演奏動画をカードに貼っておくこともある。)



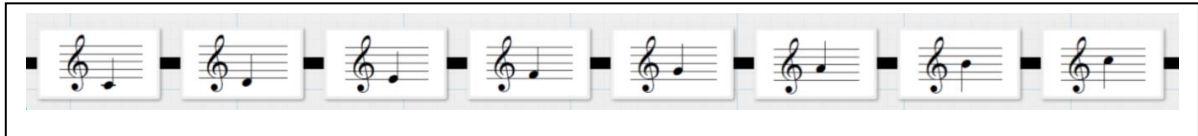
ウ 楽譜をカードに貼り、どのように歌いたいかに記号を書かせたり、歌詞を自分の思いがわかるように色や文字の大きさなどを工夫して表し、提出させる。



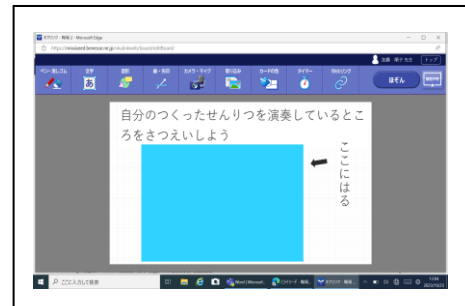
エ 6年が5年におすすめの曲を紹介するという課題で作ったカードを教師に提出させ、保存して5年に配る。



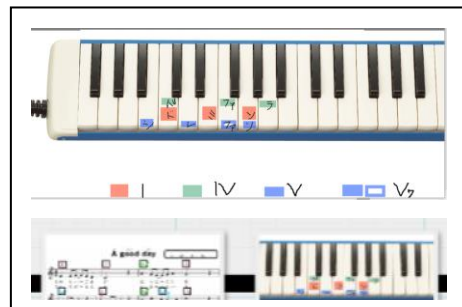
オ階名を五線に1音ずつ記入したカードを作り、つなげて配り、こちらの課題通りに並べさせる。



カ自分の演奏を撮影し、提出する。



キ鍵盤ハーモニカの押さえる場所を色づけしたカードを配る。



(2) 「ムーブノート」を音楽の学習で活用した事例
 ア音楽作りでグループ活動をするとき、グループの数分の広場を作って広場にワークシートをはり、話し合いながら自分のカードを送って音楽を作る。



イ校歌の歌詞を区切ってカードを作り、並べ替える。

